

1 学校経営の基本方針

- ◎ 子どもが主人公 「子どもにとって」≠ 子どものために
- ◎ 教師は、「一人一人のドラマ」を支えるプロデューサー
- ◎ どうせやるなら仕事は楽しく。チーム荒浜3つのwork「フットワーク・チームワーク・ネットワーク」

2 目指す子どもの姿（予想される子どもの意識、つぶやき、言葉から）※みなさんと語り合いたい

学ぶ子・・・「楽しいな」「またやりたい」「次はこうしてみたいな」「～に伝えたい」

高まる子・・・「どうしたらできるのかな」「いろんな考え方があったんだ」「〇〇さんてすごい」

きたえる子・・・「こうなりたい」「続けたい」「新しい自分を見つけた」

3 年度の重点目標（学校づくりの合言葉）

「子どもが考え、決めていく ドラマが生まれる学校」

4 年度の重点取組

（1）確かな学びづくり

- ① 生活科・総合的な学習の時間を中核とした探究。正解のない課題に向き合い、主体的・対話的で深い学びの実現。一年間が終わった時に、子どもが自分のドラマを語れるように。
- ② 各教科においても、「子どもが考え、決めていく」場面を意図的に設定し、生きて働く知識・技能を身に付ける。

（2）豊かな心づくり

- ① あたたかい人間関係、特別支援教育を土台とした「みんなが幸せになる」学級・学年経営
- ② 人権感覚を磨き、正しい価値観や生き方を学ぶ同和問題学習、道徳科授業の充実
- ③ 「子どもが考え、決めていく」自治的な活動を通して、豊かな心を育む

（3）健康な生活習慣づくり

- ① 「自分の命は自分で守る」を基本に、自他の命やからだを大切にする。
- ② 運動の心地よさを感じ、めあてに向かって努力する体育授業
- ③ 自分の生活を子どもが見つめ、自分で決めたことを継続していく習慣を身に付ける。

5 「胸をはれる荒浜小職員」であるために

- ・ 「そこに愛はありますか？」が教育の原点…人は、尊敬する人や信頼する人、愛情を感じる人からしか学ばない。子どもにとって、職員が最大の教育環境。
- ・ 感度のよいアンテナと精度のよい聴診器…子どもの様子をキャッチして、よく「みる」ことから。
- ・ 人権感覚は言語感覚で（も）ある…言葉が荒れると教室も荒れる。
- ・ 問題事案の早期解決は「ハウ・レン・ソウ」…初期対応、スピード感が命。困った時は即相談、チームで即対応。よい報告（小さなドラマ語り）も忘れずに。
- ・ 保護者対応は共感的理解が土台…保護者も学校も「子どもがよりよく育ってほしい」と願う同志。敵ではなく味方である。何か問題を起こした子どもの親ほど困っている。
- ・ 来客者への「おもてなし♥」を大切に…来客黑板、靴、お茶等の気配り、電話対応も同様
- ・ 教育公務員である自覚を…法令遵守（酒、金、車、異性、体罰は特に要注意）信頼は一日にして成らず、失うのは一瞬。
- ・ 働き方改革への挑戦…昭和、平成のルーティーンとの決別。再度「本当に必要か？」「もっとよい方法はないか？」という令和の視点で。